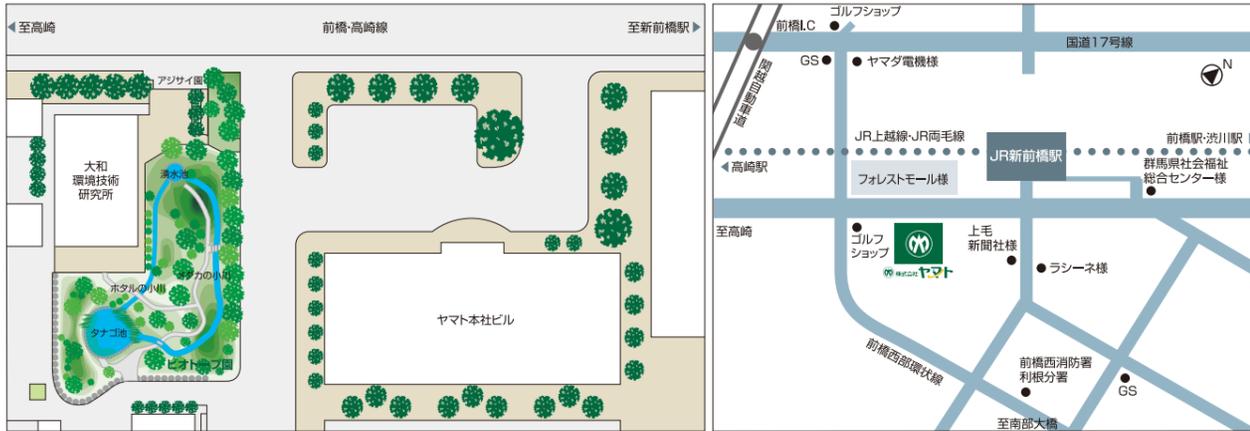


ヤマトビオトープ園全景



2019年8月撮影

ACCESS



ヤマトビオトープ園の詳細は右記ホームページからもアクセスできます。URL www.yamato-se.co.jp/



品質保証の国際標準規格
ISO9001 認証取得
Certificate Number:32621

環境マネジメントの国際標準規格
ISO14001 認証取得
Certificate Number:34835

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896 ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp
支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、教育センター、加工センター、朝倉工場、コンタクトセンター、サポートセンター



里山原風景の復元、そして創出への試み

企業の森をつくろう

ヤマトビオトープ園 Vol.8

平成13年3月、緑の全く無い赤土の荒地に初めて水が流れました。ほどなく岸辺に小さな緑が芽生え、2ヶ月後にはカルガモのカップルが訪れ1個の卵を産み落としました。ヤマトビオトープ園の幕開けです。

水が命の源であること、環境が整えば生き物達は自然に集まってくることを学びました。ここではぐまれた生き物は500種以上に及び、豊かさと多様性に富んだ自然生態系が創り出されつつあるように思います。ここでは四季折々の自然のドラマを毎日見ることが出来ます。

小さくとも豊かな自然を求めて
ヤマトビオトープ園の
四季

ヤマトビオトープ園の基本的な考え方

- 1. 自然環境への貢献**
多様性と豊かさの追求。
- 2. 地域社会への貢献**
生物にとっても、人にとっても、「癒し」の場所となる自然環境を創出する。
- 3. 生物にとってやさしい水技術の開発**
ビオトープづくりにおいて、きれいな水の確保は欠かせません。地下水を利用し、循環・ろ過して、小川のせせらぎや池をつくる。



スズメ



紅梅



ヒヨドリ



シジウカラ



サワガニの甲羅干し?



コサギ



日に日に緑を増す、タナゴ池周辺

春
SPRING

秋
AUTUMN



秋色に染まるメダカの小川周辺



ナツメ



ミヤマアカネ



ザクロ



ヒメツルソバ



サジオモダカとヤマトシジミ



ミスバショウ



スイレン



ムラサキシキブ



ノブドウ



ホテイアオイ



キキョウ

夏
SUMMER

冬
WINTER



ビオトープ園「イブの雪」



冬の花火ヤツデ



ナズナ



ミスアオイ



カワラヒワ



ノギリクワガタ



草上のゲンジボタルの発光



サルスベリ (ヒャクジツコウ)



ニホンスイセン



フクジュソウ



サザンカ



カマキリの卵

ヤマトビオトープ園 概要

緑化や緑の保全の目的

- 環境問題に少なからずかわかる企業として、ISO14000の取得にとどまらず、自然環境問題を正面から捉えていこうという社内の機運から、社員の有志による研究会(平成11年5月・後にヤマトビオトープ委員会へと発展)を発足しました。
- ヤマトビオトープ園は、“企業の森を造ろう”との合言葉で、多くの社員が各地でドングリの実を拾い、敷地内で発泡スチロールのプランターに植えて育てたことから始められました。
- ヤマトビオトープ園のコンセプト
 - ・ 自然環境への貢献
自然と人の共生…生物にとっても、人にとっても“癒し”の場である自然環境づくり。
 - ・ 地域社会への貢献
地域の人たちに、自然環境を考える場や、憩いの場として利用して頂く。
 - ・ 生き物にとってやさしい水技術の開発
“水”については自社の専門分野として、こだわりをもって取り組み、ホテルの棲める水環境を造る。

緑化や緑の保全の技術的工夫

- 平成11年11月、災害時対応の一環として飲料水用の井戸鑿泉を行いました。鉄分やマンガンの成分が過多で飲料に適さない水質だったため、利用していない状態でした。そこで、ビオトープ園の池や川にこの井戸水を利用する計画を進めました。水質改良のために、鉄・マンガン除去装置を自社開発し、その水を園内に流し豊かな生態系づくりに取り組みました。
- 園内には幅約1mの農業用水路が通っているため、その部分には盛り土をした上で池や小川を造ることになりました。そのため、池の水底や小川の岸辺から漏水しないよう、防水対策を厳重に実施しました。
- 池にペットボトルを材料にした小さな浮島を造りました。浮島には植物を植え、昆虫や野鳥が休息するオアシスの役割を持たせました。
- 園内の造成には、工事現場の残土を利用したため土質が悪く、夏季には乾燥して荒地となってしまいます。そこで、ホテルの小川の周辺に、タイマー機能を備えた水噴霧装置を数カ所設置して水を噴霧し、乾燥を防ぐとともに、周囲温度を下げる工夫をしました。その結果、湿地で育つ植物や水生植物などの成育を促すことができました。
- ホテルが棲める環境づくりを目指し、自生を支援する飼育装置を設置しました。この装置は「ホテルのマンション」と名付け、小川付近に2棟設置しました。「ホテルのマンション」にはエサのカワニナを入れ、幼虫が成長した後、小川に放流し、そこから自力で上陸しサナギとなり、時期が来たら成虫となるように工夫しました。
- ホテルの幼虫が上陸し、サナギとなり易いよう、ホテルの小川の岸辺の土壌改良を行いました。4年後にはホテルの自生を確認しました。しかし小川にザリガニが侵入して急激に増加し、水性生物の棲息に多大な影響がでました。そのため、平成19年3月に「ザリガニ駆除作戦」を実行、半年間にわたり水の流れを止め、池から水を抜きました。その結果、ザリガニの絶滅を図ることができましたが、他の水生生物もほぼ絶滅しました。その後、ザリガニの影響が無いことを確認して通水し、徐々に水生生物が復元しています。
- 樹木の植栽は、元社員寮などの敷地内にあったものも有効活用し移植しました。

緑化や緑の保全のデザイン的特色

- 本社ビルの構内は、平成5年11月の竣工時に多種の樹木を植栽して緑化を図りました。構内緑化が一段落したことを機に、平成12年から、本社構内の駐車場をビオトープにするため、下記の点に考慮して計画を進めました。
- 市街化が進む前には普通にあった「里山の原風景」の復元を目指しました。
- 清水が湧き、流れるイメージのもとに、湧水池を造り、「ホテル小川」と「メダカの小川」の2つの小川を造りました。2本の川の間は丘陵のイメージとしました。川の水は「タナゴ池」へ流れ込むように水路に傾斜をつけました。全体的に、水を重視した設計としました。
- 園内を6つのブロック(A～Fゾーン)に分け、園に隣接する緑化(アジサイ)・湧水池地区・2つの小川を持つ丘陵地区・バタフライガーデンを主とする地区・池を周遊出来る地区・井水ろ過装置周辺地区に分け、小規模ながらそれぞれ特色有る景観となるよう工夫しました。
- このヤマトビオトープ園の企画・計画・造成・管理保全については、殆どを社員の有志による社内ボランティア活動(ヤマトビオトープ委員会)で行って来ました。

環境への配慮

- コンクリートの駐車場を壊して造成を進める関係上、産業廃棄物を出来るだけ出さない様、一部は砕いて他の駐車場へ転用しました。
- ヤマトビオトープ園周辺のマンション住民への配慮として、枯れ葉が大量に発生しないよう落葉樹の植栽は控えました。
- 当社産業医がアレルギーの専門医だったため、産業医のアドバイスを得ながら植栽しました。花粉症などアレルギーの原因となる植物(スギ、ブタクサ等)は植えないように配慮しました。
- ブタクサ、セイタカアワダチソウなど外来種で、生態系に影響を及ぼす植物は排除しました。ガマ、アシ、ミゾソバ、クレソン、セリなど、生命力の強い植物は増えすぎないように適宜抜き取り、植生全体のバランスを考慮しました。
- 植物の多様性にとどまらず、野鳥、魚類、昆虫など生きもの多様性にも配慮し、豊かな生態系づくりを目指しました。
- 土壌中に棲息するササラダニ類は、環境診断の指標生物です。平成14年から平成17年にかけて、「ササラダニ類による環境診断」を実施し、植物・生物にとって好ましい環境づくりに役立てました。

景観向上への寄与

- 元来、コンクリートの駐車場であったことから、特別な景観向上を考えなくとも、ヤマトビオトープ園自体が周囲の景観を大きく変えることとなりました。
- 湧水池は山間部の岩の間から流れる清水と、そこに出来た小さな池を造り、沢の源流部をイメージしました。
- 小川や池周辺は、木杭や石積みにより区画し、より自然的な景観としました。
- 園芸品種は出来るだけ避け、田圃や畑に見られるようなごく普通の野草を重視しました。
- 地域の方や社員がのんびり自然を楽しめるよう、出入口2カ所を設け、散策路を造りました。
- チョウを呼び寄せるためにバタフライガーデンを造りチョウの好む樹木・花(榎、柑橘系樹木、ブッドレア等)を植栽しました。
- ヤマトビオトープ園と隣接する施設(大和環境技術研究所)の間には、竹材を主とした垣根を巡らしたことで、つる性の植物も現れ、より自然的になりました。



2001年3月 本社5階より撮影



濾過装置埋設工事



濾過装置



通水テスト



2002年4月



ソーラープロアー設備

ヤマトビオトープ園 概要

周辺への効果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域住民の方々に一般公開し、見学希望者にはいつでも入園できるようになっています。また、要望により園内の案内やパンフレット、資料等を配布しています。 ■ ホタル観賞の夕べ(ホタルまつり)の開催では、近隣住民を中心に多数の来園者があり、ヤマトビオトープへの関心が高まる効果を得られました。 ■ カルガモは、毎年つがいで現れ、浮島で営巣します。孵化したばかりの雛を見に、幼稚園児や小学生も見学に訪れました。また、カルガモ親子は、テレビ、ラジオ、新聞で取り上げられ、群馬県民への周知が図られました。最近では、群馬県の地方紙・上毛新聞で、カルガモ親子9羽がカラー写真付きで紹介されました(2014年6月6日付)。 ■ 群馬テレビの番組(第96回夏の甲子園群馬県予選)で流す(株)ヤマトのCMでは、ヤマトビオトープ園を題材にした内容にしました。 ■ 周辺環境の把握として、ヤマトビオトープ園造成前後に野鳥の会の協力を仰ぎ、野鳥の上空通過を含めた観察会を行いました。造成前14種だった野鳥が、造成後は27種に増えていました。ピオコリドー(生態系回廊)として、周辺自然環境にも寄与していると考えられます。
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 維持管理の主体は当社の社員の有志が参加する自然愛好会「ヤマトネイチャーサークル」のメンバーが園内のゴミ拾いを定期的に行っています。また、アメリカザリガニなど外来生物や、外来植物の除去などを行っています。 ■ 会社のOBで形成される、「大和倶楽部」のメンバーに協力を仰ぎ、生態系の観察や調査なども実施しています。 ■ 小川に使う井戸水の水質調査の結果、鉄分とマンガンが多く、ホタルの住めるような清水まで水質の向上を図るべく、自社の技術で鉄・マンガン濾過装置を開発しました。数年間、毎月水質の調査を自社の分析センターで行い、現在は、井水の水質が改善したため、井水のまま利用しています。 ■ 生態系の四季おりおりの風物、情報、写真等は、入口の「情報掲示板」や、ゾーン別(Aゾーン～Fゾーン)の「解説板」に掲示されています。 ■ ヤマトビオトープ園便りとして折り込みや、その一部がホームページでも紹介されています。
取組み期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画段階 … 平成11年5月 ■ 敷地解体整備 … 平成12年11月 ■ 着工 … 平成13年2月 ■ 通水 … 平成13年4月 ■ 維持管理 … 現在も継続中 ■ 生態系観察及び記録生態系観察リスト … 平成13年10月～平成16年2月 ■ 昆虫類・淡水魚・野鳥・山野草・樹木観察風物記録「ヤマトビオトープ園便り」… 平成15年11月～平成22年7月 160号発行 ■ 観察風物記録「ヤマトビオトープ園のおくりもの」… 平成26年3月～(現在は休止中) ■ 「ヤマトネイチャーサークル」… 平成22年9月～ ヤマトビオトープ園内の植物等の紹介や、葉画家 群馬直美氏による葉画の紹介など。
取組みの継続期間	平成13年6月～継続

今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヤマトビオトープ園は開設から今日まで、生態系は様々な変化を見せており、定期的に検証しています。 ■ ヤマトビオトープ園内整備では、過去に一度浚渫工事を行い、土砂をさらった経緯がありますが、現在池や川が土砂で埋まり、水の流れも緩くなり、生態系にも支障をきたしていることから、時期を見て浚渫工事を行うことを考えています。 ■ これらの整備が終わり次第、水性動物や水生植物の復元を行いたいと計画しています。 ■ その中で、外来種や強い種の植物などは、人為的に排除していく予定です。 ■ 生態系の調査については、平成26年3月に着手し、継続して観察中です。 (淘汰や群生など、現在そこに見合った棲み分けとなっているため種の数は当時と異なる)(平成13年10月から平成16年2月までの記録) 昆虫と水生生物:126種/淡水魚:11種/野鳥:27種/山野草:237種/樹木:118種(平成26年6月19日調査88種) ■ 今後観察を続けることにより、種類はさらに増えていくと思われませんが、最終的には一部淘汰も行われ、そこに適したものが生き残っていくと思われれます。 ■ 生態系の風物や変化については、毎月配布している「ヤマトネイチャーサークル」や「ヤマトビオトープ園のおくりもの」として、また一部をホームページの中で公開しています。 												
受賞歴	<p>平成26年度第34回緑の都市賞、奨励賞を受賞しました。</p> <p>主催者名：公益財団法人都市緑化機構、特別協賛：第一生命保険(株) 賞名：奨励賞 受賞年：平成26年11月 群馬県環境賞をヤマトビオトープ園の運営やホタル鑑賞の夕べの開催により、県民の環境保全意識の高揚に尽力したことが評価され、受賞しました。</p> <p>主催者名：群馬県 賞名：群馬県環境功績賞 受賞年：平成14年10月</p>												
地域の概要	<table border="1"> <tr> <td>地域名称</td> <td colspan="2">ヤマトビオトープ園</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td colspan="2">群馬県前橋市古市町118番地</td> </tr> <tr> <td>面積・延長</td> <td>地域全体の面積10,000㎡</td> <td>左記のうち緑化・保全している面積700㎡</td> </tr> <tr> <td>所有もしくは管理者名</td> <td colspan="2">株式会社ヤマト</td> </tr> </table>	地域名称	ヤマトビオトープ園		所在地	群馬県前橋市古市町118番地		面積・延長	地域全体の面積10,000㎡	左記のうち緑化・保全している面積700㎡	所有もしくは管理者名	株式会社ヤマト	
地域名称	ヤマトビオトープ園												
所在地	群馬県前橋市古市町118番地												
面積・延長	地域全体の面積10,000㎡	左記のうち緑化・保全している面積700㎡											
所有もしくは管理者名	株式会社ヤマト												
周辺の現況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当社は、JR両毛線 新前橋駅東口から徒歩約7分の場所に位置しています。本社ビルに隣接するヤマトビオトープ園の周辺は、工業地帯で交通量の多い幹線道路が直ぐ側を走り、オフィスビルやセメント会社のセメントのサイロに囲まれています。 ■ また、幹線道路(県道前橋高崎線)を挟んだ向かい側には大型ショッピングモールや住宅展示場があります。近隣には緑地がなく、大規模駐車場など全てコンクリートで覆われています。 ■ また、ヤマトビオトープ園も、アスファルトの駐車場を取り壊し新たに造成したものです。この地は古くは利根川扇状地の一部であったものと思われます。そこに住む人々の生活のためにいつしか沼地や水田となり使われるようになったようです。その後、時代とともに開発が進み、現在のような工業地帯となりました。 												



散布装置付き人口浮島



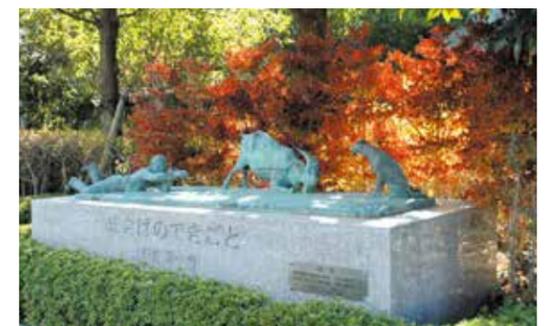
現在の人口浮島(2017年)



ホタルの小川 水噴霧装置



タナゴ池の除塵機



まきばのできごと 熊井淳一 作

ヤマトビオトープ園の記録



撮影時期
平成12年10月
撮影場所
(株)ヤマト駐車場
奥は大和環境技術研究所
ヤマトビオトープ園計画地でアスファルトの駐車場でした。



撮影時期
平成12年11月
撮影場所
大和環境技術研究所前
ヤマトビオトープ園の計画地、現場実施計画。社員の有志で行いました。



撮影時期
平成13年3月
撮影場所
本社ビル8階踊場から
ヤマトビオトープ園の通水テストを行いました。



撮影時期
平成13年8月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
タナゴ池
タナゴ池づくり
石を動かすために協力してくれた社員の皆さん



撮影時期
平成14年7月
撮影場所
ヤマトビオトープ園前
ホテル観賞の夕べを開催(ホテルまつり)しました。2日間で約1300人が来園しました。



撮影時期
平成16年7月
撮影場所
会社近くの染谷川
カルガモ保護作戦
群馬野鳥の会の皆さんの指示のもとカルガモ親子を染谷川に移動させる。



撮影時期
平成17年9月
撮影場所
フキと栗の木付近
Bゾーン
ササラダニ類による第4回環境診断(良いダニ・悪いダニ)青木淳一先生が自ら土壌を採取しました。(横浜国大名誉教授・神奈川県生命の星・地球博物館館長)



撮影時期
平成19年3月
撮影場所
メダカの小川下流付近
Bゾーン
ザリガニ駆除作戦(清掃作戦)
川の水を止め、川の中の枯葉を消極する



撮影時期
平成21年4月
撮影場所
本社駐車場
ヤマトビオトープ園の苗木(モミジ)を足尾の山に植樹しました。



撮影時期
平成23年1月
撮影場所
本社ビル1階
ギャラリーホール
ヤマトビオトープ園 写真と折り紙展を開催しました。(ヤマトビオトープの花や動物を紹介)



撮影時期
平成17年8月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
Cゾーン
ミカンの木にナミアゲハチョウが産卵



撮影時期
平成18年1月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
Bゾーン
ウメの木にとまるカワラヒワ



撮影時期
平成20年7月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
Aゾーン
タナゴ池でミヤマアカネが藪にとまる



撮影時期
平成22年2月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
Bゾーン
メダカの小川でツグミがクロメダカを捕獲



撮影時期
平成26年7月
撮影場所
本社ビル8階踊場から
Aゾーン
ヤマトビオトープ園全体風景(直近の様子)



撮影時期
平成27年7月
撮影場所
ヤマトビオトープ園入口
ヤマトビオトープ園入口の情報掲示板とゾーン全体の解説板(直近の様子)



撮影時期
平成27年7月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
南側散策路 Dゾーン
Dゾーンから南側のホテルの小川沿いの散策路は、丘陵の林の中を歩いているようで、夏には心地よい風を感じます。



撮影時期
平成27年3月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
タナゴ池 Aゾーン
タナゴ池と浮島(毎年カルガモが産卵し抱卵している)浮島を改良しました。水生植物も豊富です。池では、クロメダカが群れて泳いでおります。



撮影時期
平成26年5月
撮影場所
本社前歩道
本社前歩道をカルガモの雛9羽が行進している。



撮影時期
平成26年5月
撮影場所
ヤマトビオトープ園
タナゴ池 Aゾーン
タナゴ池を泳ぐカルガモの親子(雛9羽誕生翌日)

緑の都市賞奨励賞を受賞

平成26年度第34回緑の都市賞（主催：公益財団法人都市緑化機構、特別協賛：第一生命保険株）奨励賞を受賞しました。
表彰式は平成26年11月5日に東京で行われました。



表彰状を受け取る藤原取締役常務執行役員（右） 表彰状

葉画家 群馬直美の野菜たち 『いのちのいろ』展を開催

豊かな生態系の復元を目指すヤマトビオトープ園にちなみ、本社ビルギャラリーホールで葉画家の群馬直美先生による野菜や木の葉を描いた作品展を開催しました。株ヤマトギャラリーホール：平成27年5月27日～6月28日

PROFILE 群馬直美 GUMMA NAOMI

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ 価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の葉の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>



孟宗竹 ©Naomi Gumma
井上誠一さんの畑にて
紙/テンペラ
size:660mm×505mm

群馬直美個展を開催

下仁田ネギの一生と、ヤマトビオトープ園の葉っぱたち

令和元年8月24日(土)～9月27日(金)株式会社ヤマト本社1Fギャラリーホールにて、『下仁田ネギの一生』のテンペラ画作品6点を展示。本作は「RHSロンドンボタニカルアートショー」（英国王立園芸協会主催・2019年7月開催）に出品され、国境を越えて注目を集めた作品です。

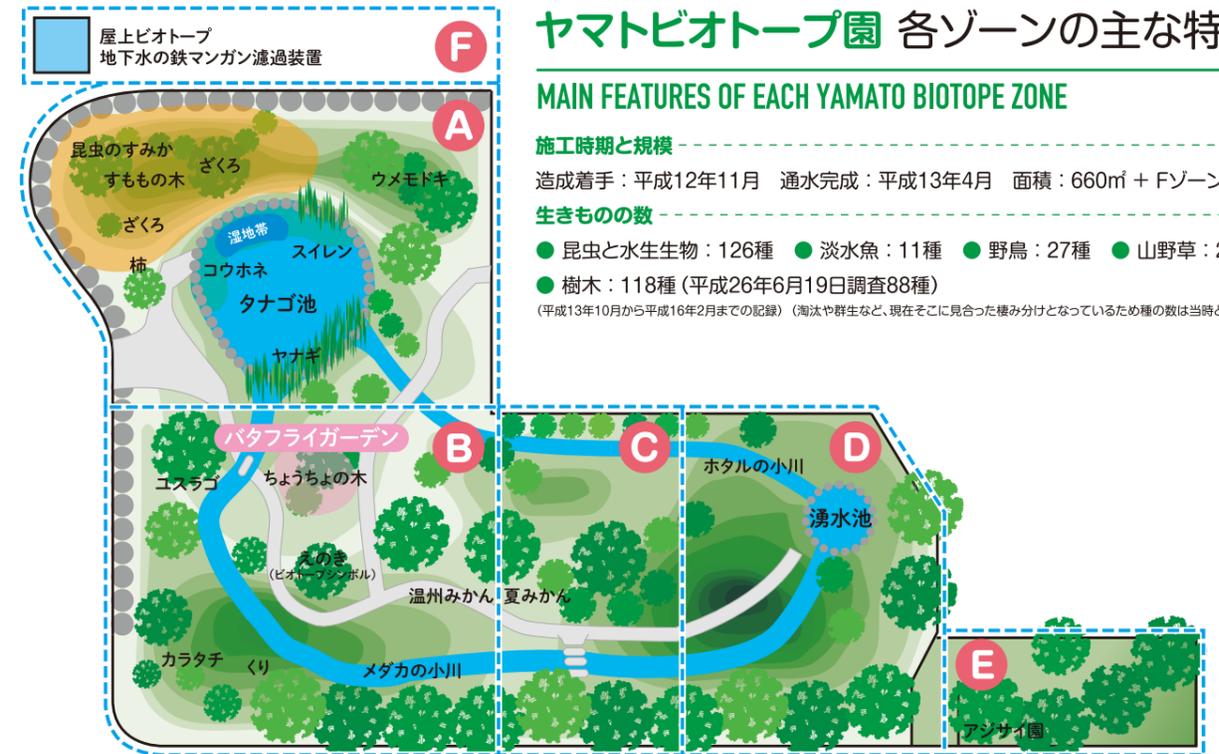
また、ヤマトビオトープ園の植物を描いたリーフレット「ヤマトネイチャーサークル」の原画27点も初公開されました。



ツバキの実 ©Naomi Gumma
ヤマトビオトープ園にて2019.7.30
紙(ファブリアーノ・エキストラホワイト極細)/テンペラ
size:335mm×245mm
ヤマトネイチャーサークル掲載



ネギの花 ©Naomi Gumma
下仁田町馬山・大澤貴則さんの畑にて
紙/テンペラ
size:1025mm×560mm



ヤマトビオトープ園 各ゾーンの主な特徴

MAIN FEATURES OF EACH YAMATO BIOTOPE ZONE

施工時期と規模

造成着手：平成12年11月 通水完成：平成13年4月 面積：660㎡ + Fゾーン40㎡

生きものの数

- 昆虫と水生生物：126種 ● 淡水魚：11種 ● 野鳥：27種 ● 山野草：237種
 - 樹木：118種(平成26年6月19日調査88種)
- (平成13年10月から平成16年2月までの記録) (淘汰や群生など、現在そこに見合った棲み分けとなっているため種の数は当時と異なる)

A ゾーン 池(タナゴ池)と浮島とメジロの石造「空飛ぶ惑星」(明田一久 作)

- ペットボトルで造った浮島はカルガモの営巣地(現在の浮島は、改良を重ねた竹と発砲スチロールと杉丸太で制作)
- 池ではメダカやタナゴを初め水生昆虫や水生植物の観察
- 社員がドングリを捨ててきて育てたクスギやコナラがビオトープのきっかけとなり、ここに植栽した

生物：カルガモ・トンボ・メダカ・タナゴや水生生物等 樹木：ロウバイ・シロカガ・コウバイ・ミツマタ・クスギ・ム・カキ・ザクロ等 山野草：キシヨウブ・オモダカ・コウホネ・スイレン・ミスバショウ等

B ゾーン バタフライガーデン

- チョウが集まる場所として別名チョウノキ(ブツレア)を植栽
- また、オオムラサキの来訪を夢見てエノキを植栽
- 周辺に柑橘類を配置

生物：アゲハチョウ・カラスアゲハ・アオスジアゲハ・ヤマトシジミ等 樹木：エノキ・ブツレア・マンサク・ヤマザクラ・クリ・バイカウツギ等 山野草：カタクリ・スミレ・カントウタンポポ・ムスカリ・フキノトウ等

C ゾーン 2つの小川(ホタルとメダカ)と丘陵のイメージ

- 2つの小川の岸辺の生態系
- 小川に挟まれた少しこもりした丘陵の生態系
- バタフライガーデンの延長として柑橘類を植栽

生物：水生生物・は虫類(カナヘビ)・トンボやチョウ等 樹木：ウンシュウミカン・ナツミカン・オオシマザクラ・ヤマブキ等 山野草：シャガ・エビネ・クレソン・オミナエシ・カタクリ等

D ゾーン 水源としての湧水池

- 石の間から清水のように湧き出し、小さな池を造る景観
- 石の間から清水のように湧き出し、小さな池を造る景観

生物：水生生物・ジャノメチョウやヒカゲチョウ等 樹木：コナラ・ポーポー・ヤツデ・ネズミモチ・キンモクセイ・ギンモクセイ等 山野草：ユキノシタ・オオバギボウシ・ハンゲショウ・フクジュソウ・ヒガンバナ・スズラン・シダ類等

E ゾーン 羊と遊ぶ子供の像「まきばのできごと」(熊井淳一 作)とアジサイ園

- 各種アジサイ
- 樹木：防風林としてのモッコク・シラカシ・マテバシイ

樹木：各種アジサイ・ドウダンツツジ・ツツジ等 山野草：シラン・ヤマユリ等

F ゾーン 小さな屋上ビオトープと畑地の農道のイメージ

- 地下水の鉄マンガン濾過装置の建物上の小さな屋上ビオトープ
- 砂利道でも、陽当たりの好きな生態系が生まれる
- 昆虫類が集まる

生物：チョウ・トンボ・バッタ等 樹木：ツバキ・クスギ・コナラ等 山野草：ツルニチニチソウ・田圃の間で見かける野草等

ゾーン全体 野鳥のエサ場と昆虫のすみか

- 野鳥のビオコリドー(生態系回廊)としての位置づけと水浴び場の役割

生物：ヒヨドリ・各種セキレイ・メジロ・シジュウカラ・ツグミ・ジョウビタキ等 昆虫：チョウ・トンボ・バッタ類・水性生物等